



松本支部チェロ科生徒の合奏



江藤先生ご夫妻の二重奏で、ヘンデルの合奏協奏曲・ト短調などが演奏された



バッハのイタリア協奏曲・第1楽章を演奏する
松山玲奈さん（8歳）



松本支部バイオリン科生徒の合奏。鈴木先生のピアノ伴奏で「キラキラ星変奏曲」



出演の先生方に花束の贈呈。左端は和合松本市長



演奏を終えて、鈴木先生と一緒にあいさつする生徒たち



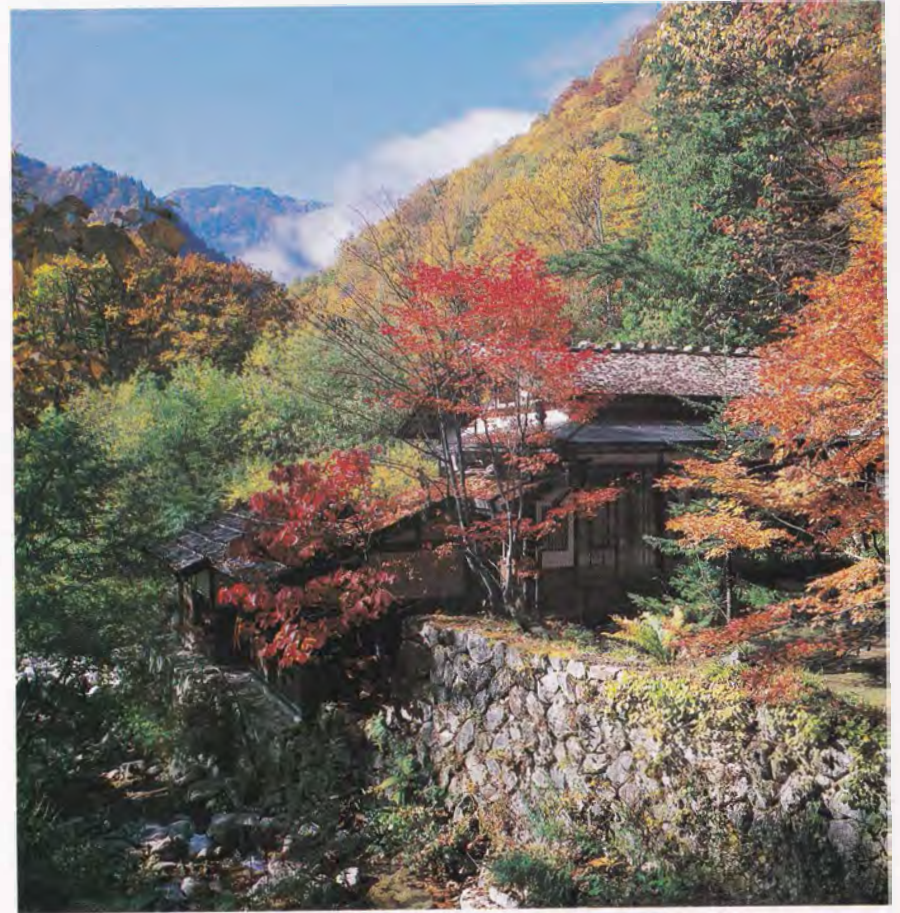
「松本市芸術文化祭の一環として「鈴木鎮一と才能教育」と題された催しが十一月六日、松本市民会館で行なわれた。当市での才能教育国際研究大会の開催を来年に控え、市民のいっそうの理解と協力を得ようと、市などの主催で開かれたものである。
写真上は、東京外国語大学教授、中嶋嶺雄先生の講演「教え子からみ



た鈴木先生」。中嶋先生は少年時代に、松本音楽院でバイオリンを学ばれた。
写真下は、同じく鈴木先生の教え子である江藤俊哉先生による演奏。曲はパガニーニの奇想曲

才能教育

TALENT EDUCATION No.62



秋季 AUTUMN '82

● 編集後記

■鈴木会長はアメリカ鈴木協会(SAA)の招きで十月一日から十七日まで、シカゴ・フィラデルフィア・モンロー・ツーソンなどアメリカ各地を訪問されました。それぞれの地で「鈴木音楽祭」が開かれ、現地の先生方や生徒が集まり、ワークシヨップやコンサートの行なわれたわけです。

今回の会長の訪米に対する反響は特に大きく、レーガン大統領をはじめ、ペンシルバニア州議会・ジェームスタウン市長・ハワイ州知事から温かい歓迎と賞賛のメッセージが贈られたほか、イリノイ州では鈴木音楽祭の行なわれた十月三日を「鈴木デー」と定め、今後毎年記念行事を行なう、とのことです。そのほかノース・イースト・ルイジアナ大学からは、名誉教授の称号を贈られました。これらについては鈴木会長の訪米報告の記事をご覧ください。

■才能教育はオセアニアにも広がっています。チエロ科の長瀬先生は八月に十四名の生徒と共にオーストラリアを訪れ、メルボルンとシドニーのワークシヨップに出席されました。またパイオリン科の青木博幸先生とピアノ科の青木章子先生はニュージーランドの「八月セミナー」に招かれ、現地の先生や生徒を指導なさいました。三人の先生方に、両国の才能教育の熱心な活動について報告していただきました。

そのほか本号には、ヨーロッパやアメリカの才能教育に関する記事の翻訳をいくつか掲載しました。

■本誌五十六号には高等科・研究科卒業生のアンケート結果を発表しましたが、今年三月に高等科を卒業した生徒さんにも同様の調査をお願いしましたので、本号にその集計結果を掲載します。

実際にお答えいただいた方が二〇〇名弱という規模の調査ですが

前回同様あらゆる面で興味のある結果が得られました。また、このアンケート用紙には父兄の感想欄が設けてあり、貴重な子育て体験談の数々をお寄せいただきましたので「母親の手記」として今後連載させていただきます。アンケートにご協力いただいた方々に厚くお礼申しあげます。

■去る十一月六日、松本市で「鈴木鎮一と才能教育」と題して、鈴木先生と才能教育の活動を改めて市民に紹介する催しが行なわれました。松本市芸術文化祭の一環で市の主催になるものです。当日は鈴木先生の教え子でいらっしゃる江藤俊哉先生と中嶋嶺雄先生(東京外大教授)に演奏と講演をお願いしたほか、松本支部生徒の大会奏なども行なわれました。

鈴木先生が松本名誉市民に推薦されてから三年が過ぎ、来年の国際研究大会開催に向けて市民の理解がますます深まってきたのを感じ

じます。

そのほかの催しでは、関東地区才能教育コンサート(東京)、ナヴァラ先生公開レッスン(松本)、豊田弓乃さんのリサイタル(松本)について、それぞれ指導者の皆さんに報告の記事を寄せていただきました。(細川博)

才能教育第六十二号(秋季)

昭和五十七年十一月三十日発行

印刷 電算印刷株式会社
発行 法人 才能教育研究会

本部 〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二

〒230 松本市深志三〇二二